



# こうまだより

第628号  
令和6年2月29日

園長 高麗 正夫

## 学力とは

2月2日に板橋区教育委員会主催の「身近な教育委員会」が開催された。主催者側の出席者は中川教育長と教育委員4名、それに教育委員会事務局10名。参加者は主に小・中学校のPTA会長であり、私は高島第一中学校の板橋コミュニティスクール委員長として出席した。ほとんどの参加者が40歳代の若い方々であり、私のような70歳代の人はいなかった。

当日の議題は「学力について」であった。議題を聞いて、国語・数学・英語といった教科の点数を上げるにはどうしたらよいか、考える内容かと思った。その理由として「全国共通学力テスト」というものがあって、小学校5年生の時には、国語と算数の2教科。中学2年生の時は、国語・数学・英語それに理科あるいは社会を隔年で実施していた。点数を全国平均、都道府県別平均を出して、自分の学校の成績と比較していた記憶があった。ところが、「学力には、3つの要素があります」という説明を受けた。

1つ目は、上記のような教科の知識を身に付けること。

2つ目は、文章を読んで理解すること。例えば、150人のお客様がいて、40人乗りのバスに全員乗せるには、何台必要ですかという問にどう答えるかである。答えは、3,75台ではなく4台。まだ単純な内容ですが複雑な内容になると、理解しにくくなる。

3つ目は、コミュニケーション能力を身に付けて、人間関係をよくすること。（生きる力）社会に出たとき、3つ目の人間関係が一番大事になってくる。

教育委員会では、今後学力テストを1番の教科テストだけでなく、2番の文章の読解力、3番のコミュニケーション能力などの内容をテストしていきたいと言っていた。

幼稚園には、学力テストはないが、幼児期に遊び（経験）を通して学力を身に付けていることが伺われる。

「友達と仲よくする」ということは、相手の気持ちを理解し、自分の意見を出しながら、遊ぶことができる。絵本や素話を通し、話の内容を理解し、想像しながら内容をふくらませていく。先日の子ども会の際に発表した年長の合唱曲「あたらしい明日へ」を歌っているとき、涙している子がいた。歌詞の内容が分ると、もう少しで幼稚園とも別れてしまうという気持ちになって、悲しくなってしまったのだろう。

1番の教科については、文字や数に興味を持っているため、学校が始まればすぐに吸収できる状態になっている。

3月は別れの月、4月は出会いの月、出会いがあれば必ず別れがある。小学校という出会いの場で、いっぱい友だちを作ってください。園長先生は、いつも皆さんの後ろにいます。